



葉を落とした木とヤドリギ

葉を落とした冬の木を見上げると、枝の途中に丸い玉のようなシルエットが幾つもついています。ヤドリギです。

ヤドリギの仲間はケヤキやナラ類などの木に寄生して育ちます。夏の間は宿主の木の葉に隠れて目立ちませんが、晩秋に宿主が葉を落とすと、そこだけが緑色をした“玉”が目立つようになります。町中の公園や街路樹でも見ることができるかも知れません。

宿主の枝に根を下ろして、そこから水や養分をもらいながら、自分でも光合成を行って育ちます。栄養分のすべてを宿主に依存していないので、「半寄生」と呼ばれます。宿主が枯れてしまうとヤドリギ自身も生きていけなくなってしまうので、宿主に大きな負担をかけるわけにはいきません。ヤドリギはごくゆっくりと育ちながら、宿主と共に生きています。

津和野町のGEOがおもしろい



青野山(津和野町)



津和野町郷土館に展示の花崗片麻岩。変成作用によって鉱物が再配列してできた縞模様(左右方向の白黒の縞)が観察できる。

日本最古の岩石が見つかった

昨年の春、津和野町で「日本最古の岩石が発見」の報道発表があり、話題を呼びました。

発見された岩石は、約25億年前に地下深くで生まれた花崗岩が、その後約18億年前にマグマの熱を受けて「花崗片麻岩」と呼ばれる岩石になったものです。これまで、日本最古の岩石は岐阜県で発見された約20億年前の片麻岩とされていたので、約5億年更新されたことになります。

発見現場は山間の手入れの行き届いた林道にあります。道沿いに露出する岩石は風化が進んでおり、肉眼で組織が観察できるような状態の良い岩石が露出しているのは数 m程度のごく狭い範囲に限られます。

三瓶自然館ではこの花崗片麻岩を4月16日からのリニューアルの目玉として展示する予定です。



露出する花崗片麻岩の露頭(現場付近は私有地のため立入りには許可が必要)。



津和野川にかかる津和野大橋近くにある弥栄神社の石垣。幕末当時の雰囲気が残る。

日本遺産と天然記念物

島根県津和野町の城下町を歩くと、石畳に武家屋敷と幕末の風情が漂います。津和野城跡をはじめ多くの史跡・名勝を含むストーリーが「津和野今昔 ～百景図を歩く～」の名称で日本遺産に認定されています。

津和野の町から仰ぎ見る位置にそびえる青野山(標高907m)は、町の象徴のひとつであり、古くから信仰の山として親しまれてきました。整った円錐形のこの山は、約20万年前の火山活動で形成された溶岩ドームです。その溶岩は、かつては石材として採られ、城下の敷石や灯ろうなどに多く使われていますが、地質学的にもきわめて重要なものです。岩石成分の特徴から、海洋プレートが日本列島付近で沈み込み、地下深部でマグマが発生する過程を知ることができるのです。その地質学的な重要性和、地域の象徴としての意義から、国の天然記念物に指定され保護・保存が図られています。

日本地質学の祖

津和野町と地質学の関わりで注目したいことの一つに、小藤文次郎の存在があります。

小藤は津和野出身の地質学者で、藩校養老館で漢学や蘭学を修め、日本最初の地質学教室である東京帝国大学地質学科の第1期生として卒業しました。ドイツへの留学を経て帰国後は同大学で教鞭をとり、多くの学生、研究者を育てました。岩石学や地震学、火山学において多くの業績を残し、日本地質学の礎を築きました。



小藤文次郎の生家跡に建てられた顕彰碑

三瓶山に残る標柱

三瓶山の北にある森田山(標高664m)で古い標柱を見かけました。

森田山は北の原キャンプ場に接する小山のような存在で、目立たない山です。その山頂で見つけた花崗岩製の標柱には、「M」のような模様の下に漢数字が刻まれています。山頂にあったものは「三五三」。標高とは関係ない数字です。

山頂から尾根を進むと、さらに2本の標柱があり、「三五二」、「三五一」と1ずつ少ない数字が刻まれています。どうやら、古い境界杭のようです。

その後、同じ標柱が三瓶山西の原周辺にもある

ことが判明、さらに、「M」のような記号が陸軍用地を示す地図記号として使われたのだとわかりました。この標柱は、かつて三瓶山が陸軍演習地だった頃に、軍用地と民地の境界を示す杭として立てられたものだったのです。

演習地だったことは、三瓶山の歴史の重要な出来事です。また、この標柱には戦争遺構として記録に留めておく価値がありそうです。



●1～2月のイベント

さんべの森たんけんたい～冬の森であそぶ～

【開催日】 1月26日(日)

【時間】 10:00～13:00

【内容】 北の原周辺を会場に、そりや雪合戦などの雪遊びで楽しめます。たっぷり雪があれば、かまくらづくりにもチャレンジ。そして、まきで火をおこして、豚汁と焼きおにぎりを作ってみんなで、お昼ご飯をいただきます。雪がない場合は、森で冬を越す生きものを探します。

歩くスキーでアニマルトラッキング

【開催日】 2月2日(日)

【時間】 9:30～12:00

【内容】 雪原に変わった北の原周辺を歩くスキーで散策しながら、動物たちが残した痕跡を探して観察する、冬ならではのイベントです。降り積もった雪の上にはキツネやタヌキ、テンなどの足跡が残されていて、動物たちが活動している様子をうかがい知ることができます。



三瓶小豆原埋没林公園の愛称を募集します

三瓶小豆原埋没林公園では、4月にガイダンス室ができて新装オープンすることにあわせ、愛称を募集します。三瓶山の噴火で埋もれた縄文時代の森を現地で展示する施設であることをイメージできる、素敵な愛称をお待ちしています。

募集期間

・令和2年1月10日(金)～令和2年2月28日(金)

応募資格

・どなたでも応募できます。
・小中学校の場合は、学校・クラスでの応募も可能です。

選考方法

・応募締め切り後、選考委員会により決定します。

発表

・選考結果は、令和2年4月上旬に県、大田市及び三瓶自然館のホームページにて発表します。

詳しい応募方法は、島根県自然環境課のホームページでご確認下さい。右のQRコードでホームページを開きます。



●お問合せ

島根県自然環境課

〒690-8501 島根県松江市殿町128番地

電話：0852-22-5724/FAX：0852-26-2142



島根県立三瓶自然館サヒメル

■2020年4月中旬まで改修工事のため休館

■交通案内

- ・JR大田市駅から車で30分
- ・松江自動車道吉田掛合ICから車で40分

SANBEフィールドミュージアムニュース <隔月発行>

編集・発行 公益財団法人しまね自然と環境財団
〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8
TEL 0854-86-0500/FAX 0854-86-0501
<http://nature-sanbe.jp/sahimeru/>
<エコサポしまね>
〒690-0887 島根県松江市殿町8-3
TEL 0852-67-3262/FAX 0852-67-3787

しまね自然と環境財団は、三瓶自然館等の指定管理者です。
また、エコサポしまねは地球温暖化対策等の事業を行っています。